

## 「悪の帝国」 共産主義はどこから生まれ、何だったのか？

かつてレーガン大統領が、当時のソ連を「悪の帝国」と呼んだとき、我々は喝采した。一昨年7月17日に、ウクライナでマレーシアの旅客機が撃墜され、たちまちロシア犯行説が世界に広まったとき、ロシアは冷静に、それを否定する衛星とレーダーによる証拠写真を、アメリカに見せたが、アメリカはそれを無視した。そのときの記者会見で、マリア・ハーフという女性報道官が、きちんとした外交文書に、なぜアメリカは返事をしないのかと問われると、「アメリカはいつだって正しく、ロシアはいつだって間違っているのです。そんなことは常識ですよ」と答えた。

要するに、ロシアが悪い国であるのは常識で、その悪事に証拠など要らないということである。この証拠の要らない常識が、実は、我々のメディアと我々大半の頭を支配している。この“常識”は誰がつくったのか、誰が何のために、用意周到に、莫大な宣伝費をかけて、これをつくり出したのか——我々は問うことを怠っている。

共産主義が「悪」の根源であり、これは亡くさねばならないという考え方に間違いはない。そしてレーガン大統領の時代には、確かにそれはソビエト連邦によって代表されたと言えるだろう。しかし、それが今も全く変わっていないかのように、「ソ連」を放棄してもロシアが人類の敵であるかのように、アメリカが宣伝するのはなぜか？

我々は、共産主義の本質とは何か、もともとそれがどこから、何のために発生したものかを、実はごく最近まで知らなかった。「イルミナティ」という言葉もごく最近まで、ほとんどの人が聞いたことがなかった。もし共産主義が宣伝通り、社会の不平等をなくし無産階級を救うためのものならば、なぜ、無神論（宗教破壊）や家族制度の廃止という、乱暴で無関係なものが、そこに条件としてついてくるのか？ なぜそれが必要なのかよくわからなかった。

ここ数年、ネット世界では、イルミナティと共産主義（マルクス主義）の関係を論ずる論文が増えてきた。これによって、やっと共産主義や、マルクスという人間の本質がわかってきた。例えば **Richard Wurmbrand** という人の長大な論文は、マルクス主義の本質は経済学などでなく、サタン主義だったと言っている。革命によって世界をひっくりかえし、プロレタリアが天下を取るとするのは口実で、実は、神の世界を奪い破壊してやるという、復讐のサタン思想だったという。

イルミナティ（サタン信仰団体）の精神構造を調べてみれば、それがマルクスのサタン思想

と調和することに気づく。マルクスはソ連の崩壊とともに死んだのではなく、今アメリカが、ロシアと中国を滅ぼして世界完全制覇（実は完全破壊）の手前まできているこの時期、必死に霊界から応援しているはずである。よく引用される彼の若い時の詩に「私は天上で支配しているあの者に復讐をしてやりたい」という一行がある。マルクスも他の共産主義指導者もイルミナティも、無神論者などではない。神を認め、その神を敵だと宣言する者たちである。今起こっている戦争は霊的次元の戦争である。霊的次元という言葉に馬鹿にする人は、本質がわかっていない人である。ダーウィン進化論などの無神論は、彼らの人間操作の道具にすぎない。

マルクスのような神への復讐思想は、人類の始まりからあった。「イルミナティ」と呼ばれる現代の集団は、1776年に、(ロスチャイルドに依頼された) アダム・ワイスハウプトから始まったと言われるが、その初めからすでに、共産主義のアジェンダと同じものが決まっていた——「一つの世界政府」「宗教、特にキリスト教の廃止」「私有財産の禁止」「家族制度の廃止」があった。だからマルクスが『共産党宣言』(1848)を書いたのは、70年を隔てた、アダム・ワイスハウプトとの共著のようなものと言われる。

家族制度の廃止には、性道徳を始めとする、あらゆる道徳や禁止の軽蔑的廃棄が含まれている。これは神の顔に唾を吐きかけるには一番気持ちのいい方法であろう——彼らには。我々の社会にも、これを間違っ「性という抑圧からの解放」だなどと言う人々がいる。(今度のトランプとの論戦で明らかになった、クリントン夫妻の異常な性的意識にそれが現れている。)

レーニンに次のような言葉がある——「我々はあらゆる策謀、言い逃れ、騙し、狡猾なウソ、違法な手段、隠ぺい、また真実のぼやかしを用いなければならない。基本的なルールは、資本主義国家の利益を搾取することである。」ここに言われている悪にくみで、現在のアメリカが、対外戦略に用いていないものがあるだろうか？ 国家としての名誉とか、フェアプレイといったものは、意識的に放棄される。これは単に、利益のためには手段を選ばないといった、普通の悪人のやり方とはちょっと違う。神の定めた正義や道徳に故意に逆らうためである。イルミナティ離脱者の告発(告白)する、故意に人間の良心に逆らい、故意に人間性を破壊する、彼らの教育方法に通ずるものがある。我々は「腐っている」と言うが、自他ともに腐らせること、すなわち神の世界の破壊が彼らの狙いである。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160213.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160105.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160107.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160112.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160114.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160119.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160120.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160121.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160122.pdf>